

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771601974
法人名	社会福祉法人こぼと会
事業所名	グループホームたんぼぼ
所在地	大阪府吹田市山田東2丁目31-5 (電話) 06-6816-3810
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成19年5月24日

## 【情報提供票より】(19年4月23日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 1月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤17人, 非常勤 9人, 常勤換算22.1人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 1～3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(2,000,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,800 円			

## (4) 利用者の概要(6月14日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	12名	要介護4	3名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.9歳	最低	71歳	最高	97歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	いのこの里診療所 池田歯科 まつもと歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街そして川と緑に囲まれたデイサービスセンター併設のグループホームである。「グループホームたんぼぼ」を運営する法人は、吹田市山田地域を中心に保育園と特別養護老人ホーム・診療所を運営している。地域に根ざし何よりも人権を大切にして運営に取り組む社会福祉法人である。グループホームの玄関周りには広い芝生の庭やテラス、菜園があり、屋内はゆったりとした空間の中にセンスがあり、家庭的かつ上品な雰囲気を醸し出している。特に素晴らしいことは職員が利用者一人ひとりに寄り添いながら自由でその人らしいくらしの実現に向けて個別の支援を行っていることである。そして利用者にとってゆたかな時間をそれぞれのペースで過ごしている。また、相談・苦情報告、ヒヤリハット報告等は全て記録に残し会議で検討し改善にむけて積極的に取り組んでいる。日常の外出支援も積極的であるが、利用者夫婦が「牛窓へ帰省したい」といった思いを実現し、故郷の懐かしい知人たちとの再会を果たせたことは利用者や職員にとって大切な思い出となっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	全ての改善課題について職員による検討会議で話し合い、改善に取り組んでいる。例えば、エレベーターホールの空間の活用やケアサービスでは共用スペースでの利用者の服装について検討した。また家族等へケアプランを提示する頻度を増やした。利用者との言葉使いについて職員間で話し合った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に評価の意義を説明し、自己評価表を配布してユニットごとに意見集約をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会・NPO法人のシルバーアドバイザー・社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー・PTA役員・近隣の寺院の僧侶・公民館々長そして利用者とその家族等に参加協力を得て運営推進会議を開催している。今後は外部評価の内容説明を行い、また参加者にもメリットのある会議を目指す。そして地域のネットワークづくりや地域の在宅高齢者や障害者の支援等も視野に入れながら取り組んでいく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月利用者の様子やホームの催し等を編集した「たんぼぼだより」と預かり金の収支報告等を郵送している。また3ヶ月毎に看護師や介護主任より健康状態や生活の様子を手紙で伝えている。家族等訪問時にはその都度利用者の様子を伝えている。2ヶ月毎の家族懇談会で常に問いかけ、意見を伺っている。出された意見は全体会議等で検討し反映させている。介護相談員を受け入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会・自治会や地域の小中高等学校や老人大学などのスポーツや文化的な催しや公民館クラブへの定期的参加、また地域で様々なボランティアとの交流を行っている。地域での認知症をテーマとした講座には職員を講師として派遣している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が独自に作り上げたわかり易い理念である。そして利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく役割を反映した理念となっており、また地域との交流の必要性が運営方針に盛り込まれ、それらの取り組みを日々行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念及び基本方針がわかりやすいところに掲示している。新任研修や全体の法人研修で理念及び基本方針の説明を行っている。またホームの職員会議で年度方針と年度総括に理念の考え方が盛り込まれている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会・自治会や地域の小中高等学校や老人大学などのスポーツや文化的な催しや公民館クラブへの定期的参加、また地域の様々なボランティアとの交流を行っている。地域の認知症をテーマとした講座に職員が講師として出向いている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に評価の意義を説明し、常勤職員全員に自己評価表を配布して意見集約をしている。昨年の評価結果について職員全員で検討しその改善に取り組んでいる。また吹田市内のグループホーム部会で職員の交流やそれぞれの事業所が互いに評価しあうことによって独自のサービスの質の向上に取り組もうとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会・NPO法人のシルバーアドバイザー・社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー・PTA役員・近隣の寺院の僧侶・公民館々長そして利用者とその家族等に参加協力を得て運営推進会議を開催している。今後は外部評価の内容説明を行い、また参加者にもメリットのある会議を目指す。そして地域のネットワークづくりや地域在宅認知症高齢者や障害者の支援等も視野に入れながら取り組んでいく。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内の同業者及び介護保険課職員による部会を設け、互いの施設を見学し意見交換をするなどサービスの質の向上に取り組んでいる。また社会福祉協議会等を通じてボランティアとの連携をしている。今後は市の職員の研修等として事業所を活用してもらうなど、職員や利用者との交流を検討する。		
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の様子やホームの催し等を編集した「たんぼぼだより」と預かり金の収支報告等を郵送している。また3ヶ月毎に看護師や介護主任より健康状態や生活の様子を手紙で伝えている。家族等訪問時にはその都度利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には来訪時や2ヶ月毎の家族懇談会で常に問いかけ、意見を伺っている。出された意見や苦情は全て記録し、全体会議等で検討し反映させている。	○	アンケートや満足度調査等を行うなど口頭での意見聴取以外の方法も検討することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が職員と日ごろからコミュニケーションをとる事によって職員の状況をよく把握するよう努力している。また法人の特別養護老人ホームとの連携をとって、違うセクションの職員との交流を図っている。やむを得ない離職等で職員が交代したときはフロア主任が1ヶ月引継ぎを行う。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てている。そして全職員の力量に応じて段階的に必要な研修を受けられるように取り組んでいる。また職員の資格取得については周りで応援できる環境づくりに努めている。	○	利用者情報の共有など日々のケアに活かされる資料等がユニットによって違いがみられる。今後は各ユニットでのよいところが他のユニットに活かされ、ホーム全体で統一した方がよいところとそうでない所を検討することが望まれる。そして現場でのOJTに反映していくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市介護保険事業者連絡会、吹田市地域ケア会議等に所属し、交流会や研修に参加している。また全国的な組織である21世紀・老人福祉の向上を目指す施設連絡会の交流会では毎回レポート発表を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1階に併設しているデイサービスセンターと連携をとり、自由に出入りしながら楽しみを共有し、利用者同士の交流の場を設けている。また、出来る限り利用者の不安を軽減するために、デイサービスの利用、ホームで夕食を一緒に取る、泊まりを体験する等利用者本人が安心して利用できるような取り組みをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は介護される立場だけではなく、特技や技能を生かすことで認められ尊敬される存在であるという場面を設けている。利用者がテーブルに飾られた花を花バサミで生けなおす姿や、利用者の書いた立派な書を玄関に飾っていたり、職員が利用者からピアノの指導を受ける等、色々な場面で利用者の自信に繋ぐことが出来るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の希望や家族の希望の聞き取りを行っている。特に家族の希望は詳細に聞き取り介護計画書に反映している。アセスメントシートには幼少時代から現在に至るまでの人生の節目節目の出来事を記録し、身体能力的に出来ること出来ないことなどの把握に努めている。今年度の事業計画に「入居者の情報を蓄積していく」を目標に掲げ取り組んでいる。	○	入居後の利用者情報の共有・把握の方法が各ユニットで違いがありそれらの蓄積が不十分である。利用者が日々の生活をグループホームで過ごされる中で、職員とのなにげないやりとりや会話などから見えてくる些細な事柄の情報を蓄積し、これらの情報を職員間で共有し活用することで、よりその人らしい生活が実現するものと考えられる。そのためにも記録の整理を行い、職員間で検討し、さらなる個別ケアに生かす事が望まれる。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望や家族の意向を反映した介護計画書である。さらに3ヶ月に1回、課題に対して職員間で検討し評価を行っている。歩行を希望する本人や家族の意向に対し、専門職の意見を取り入れ生活リハビリを組み立て取り組むなど個別性を重視した計画書となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施して、介護計画書の見直しを行っている。また身体状況に変化が見られた場合、職員が通院に同行し医師と密に情報交換を行い、微妙な薬の調整で改善に至るなど、随時状態に沿った見直しを行っている。関係者との連携や意見を大切に現状に即した計画書の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	社会福祉法人こぼと会には特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、保育園、いのこの里診療所、グループホームたんぼぼとがあり、幼児から高齢者までを対象とした地域に密着した事業運営を行っている。利用者や地域の方々の相談や要望に対し、法人のサービス機能を生かし支援できる体制が整っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を受けることが出来るように支援している。基本的には家族の対応ではあるが、無理な場合は職員が同行している。また、協力医療機関での年1回の健康診断や受診の際に検査費用が必要な場合は家族に説明の上、了解を得ている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に「看取りの指針」を説明し家族の同意を得ている。看護師や医師との連携を図っている。開設以来ターミナルケアを実施したのは1名であるが、今後さらに利用者の重度化に対応すべく検討の必要性を認識している。看取りケアの研修計画を立て取り組んでいる。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等の個人情報を利用者、職員、家族、訪問者等の目に安易に触れないようにステーションで管理している。また職員はプライバシーの確保を再認識し、言葉かけや対応等人権を大切にしたい取り組みが出来るように努めている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の思いや希望を大切にして、「その人らしい暮らし」を作り上げていくことがホームの理念であり、全ての活動の基本である。そのために個別支援を大切に取組んでいる。各ユニットで個別性を出しながら職員が切磋琢磨しサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
------	------	----	---------------------------------	----------------------	----------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が献立をたて、厨房で調理し提供している。ご飯とお味噌汁は各ユニットで利用者と一緒に準備している。利用者から希望がある時はおやつ作りや夕食作りなど買い物から調理まで職員と一緒に各ユニットで行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間は固定せず、利用者のその日の状態に合わせて対応している。一人ひとりの在宅時の生活習慣を大切に夜間入浴の希望があれば対応している。同性介助を基本としており、男性職員は女性の入浴介助は行わない。		


(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の好きな方は、調理や食器の後片付けや掃除、洗濯物干しなど役割を持って取り組んでいる。ホーム全体で音楽療法や喫茶、歌体操、フォークダンスなどボランティアの受入が多く利用者の希望に沿って、自由参加で支援している。行事等はコンサートや映画鑑賞など本物志向で家族とともに参加できる楽しい企画を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や喫茶店・美容院への外出は本人の希望に沿って支援している。近くの方博公園にはパスポートを買って再三でかけている。伊射奈岐神社、阪急山田駅周辺等個別に外出している。グループホームの庭園や中庭にも出られ、戸外に出かける支援も行っている。		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホーム内を自由に行き来できるように、玄関・エレベーター・各ユニットを開放している。1階の玄関は施錠していることもあるが、常態化せず外出したい時は職員と一緒に臨機応変に対応している。一人で外出して居場所がわからなくなったこともあったが、その後必要以上に鍵を厳重にすることなく、見守りの体制を強化している。1階には外出好きな利用者のその日の衣服の色や特徴を事務所のホワイトボードに記入し、職員の注意力を促すよう徹底している。		
----	----	--	--	--	--

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災避難訓練を実施している。緊急時の対応マニュアルを作成し、職員から家族への連絡体制をとり、近隣の消防団の協力も得ている。スプリンクラー、防火扉も設置している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量はチェック表で把握している。ミキサー食を工夫したり、食欲のない利用者には白ご飯を小さなふりかけおにぎりにしたり、五感で楽しむ食事の支援を行っている。また食事だけで十分摂取できない場合は間食で補い1日のトータルで栄養摂取できるように配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が生けられ、絵画や利用者の書かれた大きな書が置かれている。エレベーターの中には、行事の写真がパネルに貼られて掛けられている。廊下、食堂、台所は温かみのある土壁と焼板の腰板で、四季の飾りが壁に飾られている。1階の浴室は檜風呂で家庭的な浴槽である。居間には座りやすいソファやテレビ、コンパクトディスク、週刊誌、アルバム等があり、生活感のある過ごしやすい場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレと洗面所がある。また仏壇、昔の写真、利用者の似顔絵、古いタンス、ソファ、ちぎり絵、聖書、時計等の利用者が使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。家族の協力を得ながら、安心して過ごせる環境作りが工夫され取り組みがなされている。		

※  は、重点項目。